

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

当町は、学習指導要領及び中央教育審議会答申等の内容を踏まえ、児童生徒の1人1台端末の環境を最大限活用しながら、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」を実現していくためにデジタル教科書等の活用拡大を図っている。さらに今後はAIテクノロジーを駆使したデジタル教材やクラウドツールの活用を拡大することによって「主体的な学び」の実現に向けて加速し、これからの児童生徒がデジタル社会を生き抜くために必要とされる情報活用能力の育成を推進していく。

2 GIGAスクール構想「第Ⅰ期」の総括

(1) 1人1台端末とともに高速大容量通信ネットワーク整備

児童生徒個々の個別学習を実現するとともに、アクセス過多による通信速度の低下を最小限にして教員や児童生徒同士の双方向通信を可能とした。

(2) 教員に対するICT研修及び学校へのICT支援員の派遣

端末や学習用コンテンツの使い方等についての研修を実施している。各校に週1回ICT支援員を派遣し、授業をはじめとしてICTに関するサポートを実施している。

(3) 学習用コンテンツ及びネットへのアクセス制御

学習用コンテンツとしては、当初「eライブラリ」令和6年度から「キュビナ」などのドリル教材や、特別支援教育に関するコンテンツを導入し、児童・生徒の学習環境を整備した。また、学習に関係のないサイトへのアクセスを防止するため、フィルタリングサービスや職員による定期的なパトロール作業により、不適切なサイトをブロックするなどの対応を行っている。

(4) 学校内での連絡対応について

端末内コンテンツを使用することにより、学校内職員、学校と保護者、双方向でのやり取りが可能となり、出欠連絡の効率化、通知文書のペーパーレス化等につながっている。

★ 課題及び課題解決に向けた対応について

(1) 学習用端末について

端末については、児童生徒が必要なときに必要なだけ活用することを原則としている。自宅へ持ち帰りの活用を進めるために、持ち帰り用のバッグと充電器を整備した。ヒンジの劣化等による故障も発生したことから、更新する次期端末については、堅牢性も重視したものを導入する予定。OSについては、ChromeOSを採用したが、セキュリティ性能の強固さ、動作が軽く高速起動であること、クラウド上で保存できるため、ハード面で故障しても代替機と交換が簡単なことなどから、他のOSに切り替える必要性を感じない。

(2) 学校・教員ごとのICT活用格差について

1人1台端末の導入を機に、町全体でICT教育の推進が図られているが、学校や教員によっては、依然としてICT活用に差が存在している。今後さらに状況を分析し、研修の充実やICT支援員の訪問内容の変更など、様々なサポートを検討・実施していく。

3 1人1台の利活用方策

G I G A第Ⅱ期においても、引き続き児童・生徒に1人1台端末の環境を確保するとともに、より一層の利活用を推進していく。

① 1人1台端末の更新整備

ア G I G A第Ⅰ期から引き続き chromeOSとする。児童用192台、生徒用112台、小学校予備機29台、中学校予備機17台 計350台を整備する。

MDMとしては、Google GIGA Licenceを採用する。端末の管理、ウィルス対応、データの可視化の機能を有する。

イ アについては、山形県の共同調達に参加し、令和7年度当初予算にて調達する。

ウ 端末については、G I G A第Ⅰ期の反省に基づき、タッチペンが鉛筆使用タイプのものとし、堅牢性を重視したものとする。

エ G I G A第Ⅰ期整備の端末については、当初は予備機として各学校に置くが、のちには整理するものとする。

② アプリケーションの整備

ア AI型ドリル教材「Q u b e n a」

児童生徒一人ひとりの習熟度に合わせて最適な問題を出題するアダプティブラーニング教材（小学校1・2年国語・算数、3・4年国語・算数・社会・理科、5・6年国語・算数・社会・理科・英語、中学校国語・数学・社会・理科・英語）

イ 学習eポータル「Q u b e n a」

M E X C B Tに接続し、全国学力・学習状況調査や、全国体力・運動能力・運動習慣等調査の回答等に使用する。

ウ 授業支援「W i n B i r d」

児童生徒の学びの過程を画面で把握・共有し、誰一人取り残さない学習環境を支援する。C B T方式テストでのブラウザ制限したり、児童生徒の回答の様子を確認することができる。

エ W E Bフィルタリング「InterCLASS Filtering Service」

インターネット上の有害サイトをブロックして安全なインターネット環境を整備する。

オ 協働学習授業支援「ロイロノート・スクール」

資料の送受信や提出物管理、思考ツールを活用した考えを作り出す授業による思考力・判断力・表現力の育成を支援する。

カ 読みのアセスメント・指導パッケージ「M I M」

初期の「読み」の指導における「特殊音節」に焦点を当て、文字や語句を正しく読んだり、書いたり、なめらかに読んだりすることを支援する。

キ 英語デジタルコンテンツ「P L A N E T P O P」

歌やダンスのミュージックビデオ、ビデオチュートリアル等の動画コンテンツで、小学3・4年生の外国語活動を支援する。

※ 上記の他にも、「C A N V A」といった授業支援ソフト等を活用することで、児童生徒が自分で調べる場面を設け、調べた結果に基づいた考えをまとめ、発表・表現する場面を設

定する。また、端末内コンテンツのメッセージ機能を使用して、教員と児童・生徒及び児童・生徒同士の円滑なやりとりをする場면을支援する。

③ プログラミング学習

ア ロボット「mB o t」（小学校） ドローン「Tello DRONE」（中学校）

児童生徒一人ひとりのプログラム通りに体験することで、プログラミング学習の学習効果を上げるものである。

④ 指導者研修

ア 教員のＩＣＴ活用指導力向上のため、授業支援を重視したＩＣＴ支援員体制の充実を図る。

イ 個々のスキル度合いに応じて各種ソフトウェアの効果的な活用方法等を学ぶことのできる、教員向けＩＣＴ研修を実施する。

ウ 児童生徒の発達段階に応じて習得すべきスキルや能力の具体的な目標を学校で定め、児童生徒の主体的で適切なＩＣＴ活用を推進する。